

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990600029		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム やまざくらの里		
所在地	高知県須崎市安和中ノ川内693番地		
自己評価作成日	平成29年7月25日	評価結果 市町村受理日	平成29年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家や田畑に囲まれた静かな環境の中で、事業所理念である「微笑み、支え合い、やすらいだ生活を共に」を念頭におき、利用者と共に散歩や家事等を一緒に行っている。また、音楽療法や専門職による巡回指導、ボランティア(園児、小学生、傾聴、ギター演奏等)の受け入れを積極的に行っている。地域の行事にはできるだけ参加をし、地域交流を行っている。外出については、季節の移ろいを肌で感じることができるように、季節の花見などを兼ねて行き、気分転換を図っている。事業所では、居宅介護事業所や病院の相談員と連携をとり、地域の低所得者と重度の要介護者の受け入れを積極的に行っており、地域福祉に貢献できるように努めている。また、事業所での生活が困難になった場合は、希望に沿って法人内、外の介護保険施設等のサービスが利用できるような体制を整えている。防災の面では、南海トラフ地震が発生した想定で、年3回以上の総合訓練に加え、風水害訓練も実施しており、万が一の際に安全かつスムーズに避難ができるように備えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&JiyosyoCd=3990600029-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年9月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に民家があり、山や田畑に囲まれた、緑溢れるのどかで自然豊かな環境に立地する。
職員と共に話し合い、新たに作成した事業所の理念「地域と共に支え合い安らいだ生活を共に」を念頭に、日々のケアが実践されている。
管理者は、市の担当部署の会議に積極的に参加したり、地域の集落活動センターを通じて敷地の草刈りを依頼するなどして、地域住民とつながりを持つ努力をしている。また、職員は、近所の保育園児と一緒に敷地内にある畑の芋掘りを楽しんだり、運動会や敬老会などの地域行事に参加している。
ケアについては、音楽療法を個別に実践し、変化や効果があった利用者には、それを見逃さず事例として職員間で共有するなど、管理者を中心に全職員が連携し、利用者の自立支援を心掛けながら、日々取り組んでいる。
防災面では、火災訓練などでは、南海地震対策を想定し、複合した災害対策として取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:さくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の共有については、採用時に説明を行い理解をしてもらっている。廊下や職員室に基本理念を掲示し、職員が確認できるようにしている。また、申し送り時などに皆で理念について考える機会を設けている。	前回の外部評価結果を受け、理念を見直すために全職員が話し合い、現在の理念を作成している。廊下や職員室に掲示し、サービスの在り方として常に立ち返り実践に繋がられるよう、申し送り時などに皆で考える機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、広報誌などを配布してもらっている。また、地区の保育園や小学校の行事への積極的な参加や訪問を受け、交流を継続している。地域の集落活動センターの利用を通じて、地域住民との交流を行っている。	日頃から、暮らしを共にする地域の一員として挨拶を交わしている。積極的に地区の行事に参加し、保育園や小学校との交流にも努めている。元JAあわ事業所跡地の集落活動センター内の喫茶利用などで、地域住民との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会議や防災会議に積極的に参加し、事業所内の様子や情報を発信している。その中で、地域住民から相談等にも気軽に応じており、開かれた事業所作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。前回の検討事項などは、次の開催時に報告するようにしている。また、会議で得た情報や意見を運営に活かしている。	運営推進会議では、事業所から利用者の事故報告などの課題や懸案事項を報告し、出席委員と活発に話し合った結果を事業所運営に活かしている。議事録は閲覧できるように玄関に掲示しているが、不参加の家族への報告はしていない。	運営推進会議議事録を会議に参加していない家族に送付して、事業所運営への意見をもらい、家族の運営に対する理解と協力を促されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催するケア会議や、相談員との意見交換会、グループホームの管理者会にできるだけ参加し、得た情報を事業所運営に活かしている。	市町村担当者が運営推進会議メンバーで日頃から連携を深めており、相談しやすい。管理者が市主催の地域ケア会議に年4回、グループホーム連絡会に年3、4回参加し、顔の見える関係づくりを心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて職員が十分に理解できるよう具体例を用い、職員一丸となって言葉の拘束も含めての学習の機会を作っている。また、日中は玄関に施錠は行わずに、自由に入出りできる環境を整えている。	研修で具体例をもとに身体拘束について学び、スピーチロックなどの拘束も含め勉強会を実施し、職員同士注意し合う関係を築いている。玄関の施錠も日中は行わず、出入りが分かるように玄関に鈴をつけている。外出傾向のある利用者には、遠くからさりげなく見守り同行をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待防止に取り組んでおり、勉強会や職員会を活用して虐待について学び、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の勉強会に参加し、事業所での勉強会や職員会を活用し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿った説明を行い、理解、納得を得た上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の定期的な訪問があり、利用者や家族と面接している。家族会では、家族だけで話し合う時間を設けて、率直な意見を出してもらっている。また、個別には面会の際や電話連絡の際に、家族の意向を事業所側から聞くように心がけている。	介護相談員や傾聴ボランティアが定期的に訪問し、利用者や家族と面接している。年3回の家族会では、家族だけで忌憚なく話し合える時間を設定している。意向や要望は、利用者からは日々職員が接する中で把握し、家族からは、面会や電話連絡に合わせて聞いて、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やカンファレンスの機会に話し合いを行い、反映するようにしている。	職員からの意見をできるだけ運営に反映させるよう、日々の申し送り時、月2回の職員会で職員の意見を聞き、管理者は、業務改善等でできることはすぐに対応している。	外部評価を受けて作成した目標達成計画についても、全職員で話し合い、改善に取り組まれるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表をもとに職員と面談し、個々の能力に応じた指導や能力開発に努めている。介護処遇改善計画書を取り入れ、賃金改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育部を中心に、研修会や勉強会を行っている。また、外部研修についても個人のスキルに合わせて参加の機会を設けている。研修参加後は、事業所内で講師となり学習会を行うことを必須とし、研修内容を皆で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や、地域の関係事業者同士の会議には積極的に参加して、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず面接を行い、心身の状態の把握や、本人の思いを受容するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず家族と面談し、利用者のこれまでの生活歴や、入所申し込みに至る経緯を傾聴し、信頼関係を構築できるように努めている。また、経過などを家族に報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入所相談を受けた場合には、法人内外と連絡をとると同時に事業所の職員と話し合い、できる限りの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言動や行動からその思いを探り、喜びや不安等を知る努力をし、共に暮らすもの同士の関係を築くように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡で日頃の本人の状態等を報告し、情報共有することで、本人を支える協力関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>散歩で自宅近所の住民と話しをしたり、以前の職場や、通いなれた美容院に行ったりする等、できる限り馴染みの関係が継続できるようにしている。</p>	<p>利用者に馴染みの美容院に行けるよう支援すること等により、引き続き関係が途切れないように努めている。また、自宅周辺へのドライブや散歩も行い、馴染みの関係を継続できるよう支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入所者同士の関係について、職員間で情報を共有し、人間関係が円滑になるように働きかけている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も家族等が気軽に事業所を訪問してもらえるように声をかけ、いつでも相談に応じるようにしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、本人の言動や行動を理解し、会話を通じて希望や意向の把握ができるように努めている。</p>	<p>入所前に、家族や家族以外にも旧知の人から話しを聞き、利用者が安心して過ごせる生活環境の希望や意向の把握に努めている。日々の関わりの中では、利用者のちょっとした表情の変化やつぶやきなどの日々の様子から察知するなどして、思いを汲み取るようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人との会話の中で、生活歴の把握に努めている。また、家族や知人の面会の際には、利用者のこれまでの生活環境などを聞くようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢や認知症の進行などにより、個人のレベルに応じて対応している。日々の対応により些細な変化にも対応できるように、カンファレンス、勉強会を開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会等で必要に応じてカンファレンスを実施して、利用者の状態に応じた介護計画を作成するようにしている。	日々の関わりの中で利用者や家族の意向や希望を聞き、職員や訪問看護師等の意見を踏まえて利用者の状況をモニタリングし、その結果を踏まえて3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、プランを作成している。状態変化が見受けられた時には、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、水分摂取量、排泄、服薬、身体の状態等、日々の暮らしの様子を記録している。また、職員間の情報共有については、申し送りのノートや、個人別のシート記録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な方や日用品などの、購入が難しい家族などに代わって代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり、集落活動センターの利用、訪問を通じての交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、本人、家族の希望があれば入所前のかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。	内科受診は家族に了解を得て事業所の協力医をかかりつけ医として月2回の訪問診療を受け、他の診療には家族が対応して、入所前のかかりつけ医を受診している。受診結果は記録し、受診前後の情報を家族と密に共有しているほか、週2回の法人内連携訪問看護がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による定期的な訪問に加えて、入所者に変化があれば、24時間いつでも連絡ができ、適切な指示や処置を得ることができる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には担当医師、看護師、ソーシャルワーカー等と連絡をとり、家族の意向を尊重しながら、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針を定めており、入所時には本人、家族に説明している。また、協力医との連絡も密に図っている。	入所時に、重症化した時の看取り介護について定めている指針を説明し、必要になった時点で家族と対応を話し合っている。重症化については協力医に協力要請しているが、看取りの終末医療体制の確保が困難であり、看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDの適切な使用方法の講習を受けたり、地元消防による事故発生時の実技講習を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の各棟に防災無線が設置されている。また、万が一の際の避難所や災害対策本部との直通無線電話の貸与を受けており、連絡訓練も行っている。地元消防署の指導を受け総合訓練を行うとともに、事業所単独でも訓練を実施している。	南海地震と火災などの複合災害を想定した訓練を年3回消防署の協力を得て行っている。避難所や災害対策本部との直通無線電話の貸与を受け、全職員が連絡できるよう訓練している。事業所単独での訓練も実施しているが、住民の協力はまだ得られていない。	集落活動センターでの交流を通じて地区長や防災会に実情を話し、災害時に協力が得らるように努められたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人を尊重し、声がけの仕方を工夫するなどの対応をしている。また、勉強会を行うなどして、自己啓発を行っている。	不適切な言葉遣い等には、その都度職員が注意し合っている。命令口調や利用者の尊厳にかかわる声掛けをしている場合には、管理者が注意し、職員会でも報告して、利用者の尊厳やプライバシーが守られるよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で良い人間関係をつくり、無理なく利用者が思いを表現できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせた支援ができるよう、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の希望に沿った支援ができるよう、心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は香南会本部の管理栄養士が立てており、それに沿って調理している。料理のできる利用者と職員と一緒に準備をしたり、時には、もらった野菜や、地元で取れる季節の野菜を利用したメニューに変更したりしている。	本部の管理栄養士の献立に従い食材が調達され、調理している。行事の時にはその都度メニューを変更し、利用者が食事を楽しめるよう工夫をしている。利用者の希望により、集落活動センター内の喫茶店に外食に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を用いて、1日の食事、水分の摂取量をチェックしており、摂取量が少ない場合は食事形態を変えたり、捕食をするなど、個人に合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するために、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや、誘導を行っている。	排泄チェック表の活用により利用者の排泄パターンを把握し、利用者の状況に応じて個別にトイレ時間誘導、介助などを行い、排泄の自立ができるよう支援している。夜間のポータブルトイレ利用者やオムツ、パット等使用者は個別に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分や運動を促す等の便秘予防に取り組んでいる。それでも、排便がない場合には、医師の指示のもと、下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の身体状況を理解し、支援できるようにしている。入浴拒否や発熱などで中止した場合には清拭などを取り入れて、個人に合わせた支援を行うようにしている。	希望により夏は毎日、冬は2日に一度入浴できる体制で支援している。発熱などで入浴できない利用者には清拭、入浴拒否の場合は声かけの工夫、女性利用者には女子職員への交代等、個々に合わせた支援を行っている。夜間入浴も、希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	加齢や個人の日々の身体状況に合わせて、昼寝を取り入れたりするほか、夜間も本人のペースに合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々に合わせた服薬支援を行い、状態に変化があった際には、早急に看護師と連絡を取り合い、早期対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に合わせて家事などの役割を提供し、職員が支援している。本人の趣味等を受け入れ、作業などをしてもらっている。また、個人の食事の嗜好を理解したうえで、献立の変更を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には外気浴に心がけ、散歩を取り入れたり、職員と買物に行ったりしている。また、個人で散歩を希望する場合は、職員が時間を作り、できる限りの支援を行っている。	気候が良ければほぼ毎日、事業所周辺を散歩し、保育園児と交流したりして、外気浴をしている。職員が付き添い、近くのコンビニへの買物にも出かけたりしている。洋式トイレの有無などの下見をした上で、利用者全員で家族会を兼ねたドライブや、花見などに出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で管理しているが、買物時には本人が支払う等の対応を行っている。本人が所持を希望する場合には、小額のお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、家人に電話をかける手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、中庭などに長椅子を置いたり、室内のソファの配置を変えたりしながら、できるだけ利用者同士が過ごせる空間を提供している。	玄関には観葉植物や利用者の木工細工作品を、食堂にはテーブルに花を飾り、心地よく過ごせるよう配慮している。行事報告や折り紙細工を壁面に飾り、利用者が季節感や居心地よさを感じられるよう工夫している。随所に椅子や長椅子を置き、利用者同士が過ごせる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときには、居室で自由に過ごしてもらったり、気の合った入居者同士が過ごせるように椅子を準備したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が愛用していたものを持参してもらうようにしたり、花やぬいぐるみ等を飾るなどして、利用者個々に合わせた空間づくりに努めている。	居室には、利用者が使い慣れた筆筒、仏壇、家族や友人との写真、猫好きの利用者の居室には猫のぬいぐるみ等が置かれ、利用者が、居心地よく落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の生活能力に合わせ、衣服管理や物品管理を行っている。		

ユニット名:

さくら

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:かわせみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の共有については、採用時に説明を行い理解をしてもらっている。廊下や職員室に基本理念を掲示し、職員が確認できるようにしている。また、申し送り時などに皆で理念について考える機会を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、広報誌などを配布してもらっている。また、地区の保育園や小学校の行事への積極的な参加や訪問を受け、交流を継続している。地域の集落活動センターの利用を通じて、地域住民との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会議や防災会議に積極的に参加し、事業所内の様子や情報を発信している。その中で、地域住民から相談等にも気軽に応じており、開かれた事業所作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。前回の検討事項などは、次の開催時に報告するようにしている。また、会議で得た情報や意見を運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催するケア会議や、相談員との意見交換会、グループホームの管理者会にできるだけ参加し、得た情報を事業所運営に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて職員が十分に理解できるよう具体例を用い、職員一丸となって言葉の拘束も含めての学習の機会を作っている。また、日中は玄関に施錠は行わずに、自由に出入りできる環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待防止に取り組んでおり、勉強会や職員会を活用して虐待について学び、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の勉強会に参加し、事業所での勉強会や職員会を活用し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿った説明を行い、理解、納得を得た上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の定期的な訪問があり、利用者や家族と面接している。家族会では、家族だけで話し合う時間を設けて、率直な意見を出してもらっている。また、個別には面会の際や電話連絡の際に、家族の意向を事業所側から聞くように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やカンファレンスの機会に話し合いを行い、反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表をもとに職員と面談し、個々の能力に応じた指導や能力開発に努めている。介護処遇改善計画書を取り入れ、賃金改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育部を中心に、研修会や勉強会を行っている。また、外部研修についても個人のスキルに合わせて参加の機会を設けている。研修参加後は、事業所内で講師となり学習会を行うことを必須とし、研修内容を皆で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や、地域の関係事業者同士の会議には積極的に参加して、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず面接を行い、心身の状態の把握や、本人の思いを受容するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず家族と面談し、利用者のこれまでの生活歴や、入所申し込みに至る経緯を傾聴し、信頼関係を構築できるように努めている。また、経過などを家族に報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入所相談を受けた場合には、法人内外と連絡をとると同時に事業所の職員と話し合い、できる限りの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言動や行動からその思いを探り、喜びや不安等を知る努力をし、共に暮らすもの同士の関係を築くように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡で日頃の本人の状態等を報告し、情報共有することで、本人を支える協力関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>散歩で自宅近所の住民と話しをしたり、以前の職場や、通いなれた美容院に行ったりする等、できる限り馴染みの関係が継続できるようにしている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入所者同士の関係について、職員間で情報を共有し、人間関係が円滑になるように働きかけている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も家族等が気軽に事業所を訪問してもらえるように声をかけ、いつでも相談に応じるようにしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、本人の言動や行動を理解し、会話を通じて希望や意向の把握ができるように努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人との会話の中で、生活歴の把握に努めている。また、家族や知人の面会の際には、利用者のこれまでの生活環境などを聞くようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢や認知症の進行などにより、個人のレベルに応じて対応している。日々の対応により些細な変化にも対応できるように、カンファレンス、勉強会を開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会等で必要に応じてカンファレンスを実施して、利用者の状態に応じた介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、水分摂取量、排泄、服薬、身体状況等、日々の暮らしの様子を記録している。また、職員間の情報共有については、申し送りのノートや、個人別のシート記録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な方や日用品などの、購入が難しい家族などに代わって代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり、集落活動センターの利用、訪問を通じての交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、本人、家族の希望があれば入所前のかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による定期的な訪問に加えて、入所者に変化があれば、24時間いつでも連絡ができ、適切な指示や処置を得ることができる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には担当医師、看護師、ソーシャルワーカー等と連絡をとり、家族の意向を尊重しながら、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針を定めており、入所時には本人、家族に説明している。また、協力医との連絡も密に図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、AEDの適切な使用方法の講習を受けたり、地元消防による事故発生時の実技講習を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の各棟に防災無線が設置されている。また、万が一の際の避難所や災害対策本部との直通無線電話の貸与を受けており、連絡訓練も行っている。地元消防署の指導を受け総合訓練を行うとともに、事業所単独でも訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人を尊重し、声かけの仕方を工夫するなどの対応をしている。また、勉強会を行うなどして、自己啓発を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で良い人間関係をつくり、無理なく利用者が思いを表現できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせた支援ができるよう、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の希望に沿った支援ができるよう、心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は香南会本部の管理栄養士が立てており、それに沿って調理している。料理のできる利用者と職員と一緒に準備をしたり、時には、もらった野菜や、地元で取れる季節の山菜を利用したメニューに変更したりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を用いて、1日の食事、水分の摂取量をチェックしており、摂取量が少ない場合は食事形態を変えたり、捕食をするなど、個人に合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するために、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや、誘導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分や運動を促す等の便秘予防に取り組んでいる。それでも、排便がない場合には、医師の指示のもと、下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の身体状況を理解し、支援できるようにしている。入浴拒否や発熱などで中止した場合には清拭などを取り入れて、個人に合わせた支援を行うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	加齢や個人の日々の身体状況に合わせて、昼寝を取り入れたりするほか、夜間も本人のペースに合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々に合わせた服薬支援を行い、状態に変化があった際には、早急に看護師と連絡を取り合い、早期対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に合わせて家事などの役割を提供し、職員が支援している。本人の趣味等を受け入れ、作業などをしてもらっている。また、個人の食事の嗜好を理解したうえで、献立の変更を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には外気浴に心がけ、散歩を取り入れたり、職員と買物に行ったりしている。また、個人で散歩を希望する場合は、職員が時間を作り、できる限りの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で管理しているが、買物時には本人が支払う等の対応を行っている。本人が所持を希望する場合には、小額のお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、家人に電話をかける手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、中庭などに長椅子を置いたり、室内のソファの配置を変えたりしながら、できるだけ利用者同士が過ごせる空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときには、居室で自由に過ごしてもらったり、気の合った入居者同士が過ごせるように椅子を準備したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が愛用していたものを持参してもらうようにしたり、花やぬいぐるみ等を飾るなどして、利用者個々に合わせた空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の生活能力に合わせ、衣服管理や物品管理を行っている。		

ユニット名:

かわせみ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				